

# 古典百名山

大澤真幸が読む  
『野生の思考』は、西洋の民族中心主義に対する自己批判の書である。私たちは、科学を生み出した西洋の知が最も進んでいて、他は遅れた未熟な思考だと考えがちだ。しかし本書でレヴィ・ストロースは「未開人」の呪術的思考(具体的論理)は洗練された知的操作を含んでおり、「文明人」もまた日常の思考や芸術的活動では、同じ「野生の思考」に依拠しているということを証明してみせた。野生の思考は「器用仕事」に喩えられている。素人でも日曜大工等で、ありあわせの道具と

## 西洋の「文明人」の自己批判



Claude Lévi-Strauss (1908~2009)。フランスの人類学者

材料を使い、それなりの物を作る。これと似て、例えばトーテムミスムと呼ばれるものは、目の前の自然種を(隠喩や換喩によって)社会集団に対応づけながら、自然と人間を同時に巧みに分類している。野生の思考は、分類のための分析理性だけでなく、弁証法



大橋保夫訳、みすず書房・5280円  
野生の思考を駆り立てている要素は何か。それは「記号」で

的理性も備えている。弁証法的要素は何か。それは「記号」で理性とはこの場合、自然の全体性を自然と文化に分割したことから生ずる矛盾をどう解決するか、ということへの答えである。本書によれば、神話や儀礼はまさにその答えだ。これは、未開社会は弁証法的理性を持たない、としたサルトルへの批判だ。思想界に君臨していたサルトルは、本書によってその地位から引き摺り下ろされた。野生の思考を駆り立てている要素は何か。それは「記号」で

## 好書好日

「クトゥルフ沼への誘い」が多いと思いますが、昨年刊行された南條竹則さん編訳の傑作選『インスマスの影』(新潮文庫、825円)をはじめ、近年、次々と新訳や解説書が出ています。理由の一つには、ゲームなどを通じてクトゥルフを知った若い世代からの注目があります。深く入り組んだ物語群を前にして、より知りたくなったり、途方に暮れたりした人が買い求めるようです。未読の方は、まず田辺さんの漫画からどうぞ。『好書好日』編集長・野波健祐

## おすすめ

### その絵が私をして語らしめる



青土社 2640円

『エドワード・ホッパーの作品は鏡である。光と影が強い印象を残す絵はどれも静謐なものなのだが、それを見て見る者に一編の物語を語りかけてやまない。その鑑賞は小説を読むのに近いところがあり、しかも物語の展開は各自の想像に任ざれるから、誰も語りたくなる、語らずにはいられない。アメリカの当代の人気作家たちがその絵に魅せられ、短編集が編まれたのもうなずける。

### こいまん

井出 圭亮(著)

現実社会とは裏腹にフィクションの世界では極道のもの人気は根強い。ヤクザ×料理など意外な掛け合わせの作品も登場するなか、ヤクザ×少女マンガという究極のミスマッチに挑んだのが本作だ。主人公は、鬼の愛染。と恐れられる最凶ヤクザ。ケツ持ちするクラブのホステスに一目惚れし「俺の女になれ」と迫るも「私：こいまん」と断られる。「こいまん」とは人気少女マンガ「友達以上恋人未満」の略称。「友達以上恋人未満」の略称。「友達以上恋人未満」の略称。

### 脳がしびれる強烈な不協和音

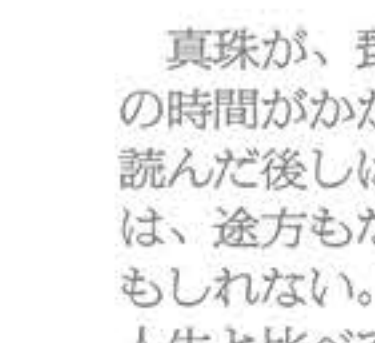
南 信長

両者が奏でる強烈な不協和音が脳がしびれる。鬼の愛染。本領発揮の修羅場が描られる。胸キュン場面にシノクロしてしまふのは爆笑。『こいまん』劇場版アニメ上映中に起きた事件からの展開には感動すら覚える。この異種格闘技戦に注目せよ!

## 新書

- 鳥飼玖美子・苅谷夏子・苅谷剛彦著『ことばの教育を問う』英語教育・国語教育・社会学の専門家が「ことばの力」をどうとらえ、教育の実践に運動できるかを考える『言語教育論』。書きことばで対話する「対書」だ。大学入試改革の問題点も含め、改めて現代社会に必要な思考力を鍛えることに焦点を当てた。(ちくま新書・924円)
- 尾崎俊介著『ハーレクイン・ロマンス』副題は『恋愛小説から読むアメリカ』。同シリーズは世界114カ国で読まれ、英語版のほか28カ国語に翻訳、累計67億部が売れている。英国生まれのロマンス小説だ。ヒロインの最近の傾向は小柄から高身長へ、年齢設定も上昇、婚前交渉の描写も増加するなど、変遷が面白い。(平凡社新書・968円)
- 太田光・山極寿一著『言葉』が暴走する時代の処世術! SNSで瞬時に世界を駆け巡り、拡散される「言葉」。しかし、それは今、本

## しんじゅのこ



え・渡邊 良重 ことば・福永 信 リトルモア 1980円



真珠が、琵琶湖でできるまでに6年の時間がかかる、ということについて読んだ後しばらく考えた。6年。それは、途方もない時間とは言えないのかもしれない。けれどそれは「私たちの人生と比べて」であって、そして私たちの人生にとって、本当に6年は「途方もない時間」でもない。時間なのか、とも考えてしまう。真珠が作られるまでにかけられる手間暇。貝が生まれ、育ち、真珠を作り上げるまでの時間。費やされる、貝の時間、湖の時間、人々の時間。完成したものの向こうにある、過ぎ去った時間のこと、行き交った空気、水のこと、誰かの別れ、出会い。それらについて、「途方もない時間」とは言えないと知っていて、それでも、6年を超えた時間を生きている私たち。様々なことを繰り返して、ずっと。真珠は6年の時間を超えて、人の掌へとやってくる。これからの時間を共にするために。誰もその全貌を見ることはできない、大

きな大きな湖のような「時間」が、そっと自分を包んでくれる予感がある。そのことを思い出させる絵本です。 最果 タヒ(詩人)

## コミック



日本文芸社 715円

## リブラの野望 破壊者か変革者か

藤井 彰夫、西村 博之(著)

2019年6月、米フェイクブックが発売した仮想通貨「リブラ」構想は世界の金融関係者に大きな衝撃を与えた。本書はその功罪両面を探る。世界で銀行口座がない人は途上国を中心に17億人いるが、そのうちの10億人が携帯電話を持つ。こうした人たちがリブラを介して金融インフラにアクセスできる等の利点がある一方、政府・中央銀行が国が独占的地位を占めてきた通貨発行権を侵されかねない等と懸念する。リブラは「重課税など不正対策として、ビットコイン同

## ビジネス

### FBの仮想通貨構想 功罪を探る

その発行・運営主体「リブラ協会」には当初、米ライドシェア大手のウーバー、米28の企業・団体が名を連ねたが、金融当局などの批判を受け脱退した企業も少なくない。巨大IT企業が圧倒的な顧客基盤をテコに、金融分野で素早く支配的な地位を固め、寡占につながる等の恐れもある。「リブラが計画通りに誕生するとは思わない」と疑う識者もいるが、第2、第3のリブラ的動きは続き、金融のデジタル化は止まらないと本書は見る。

### 「ブロックチェーン」を使う

また価値がドル、ユーロ、円などと連動する「通貨バスケット」制を採用し「安定通貨」を目指す。その発行・運営主体「リブラ協会」には当初、米ライドシェア大手のウーバー、米28の企業・団体が名を連ねたが、金融当局などの批判を受け脱退した企業も少なくない。巨大IT企業が圧倒的な顧客基盤をテコに、金融分野で素早く支配的な地位を固め、寡占につながる等の恐れもある。「リブラが計画通りに誕生するとは思わない」と疑う識者もいるが、第2、第3のリブラ的動きは続き、金融のデジタル化は止まらないと本書は見る。

### 東京新聞社会部著『兵器を買われる日本』

東京新聞の調査報道キャンペーン「税を追う」をもとにした。貿易赤字削減を求めたトランプ政権の圧力をかわそうと、官邸主導で兵器調達が進む。政府は、ステルス戦闘機F35の105機を追加購入する方針を発表。米国防務省の「爆買い」で防衛費は火の車に。兵器取引の実態を追う。(文春新書・935円)

# 戦争は女の顔をしていない

小梅けいと 原作/スヴェトラナ・アレクシエーヴィチ 監修/速水蝶理人



「この原作を漫画化しようと考えた作家がいるとは想像しなかった。瞠目する。」 富野由悠季さん

狙撃兵、軍医、書記、斥候、飛行士……旧ソ連で第二次世界大戦に従軍した、500人超の女性たちへのインタビュー集を原作に、今、日本人作家が国境を越えて描く、各界騒然の挑戦作。あの戦争の真実を明らかにする……。

豪華試し読みPV 公開中! CV:日笠陽子さんほか こちらから視聴できます!

第1巻 好評発売中 定価(本体1,000円+税) ISBN978-4-04-91292-3